文化財をたずねて

No.6

『有年小学校周辺(西有年)』の史跡めぐり

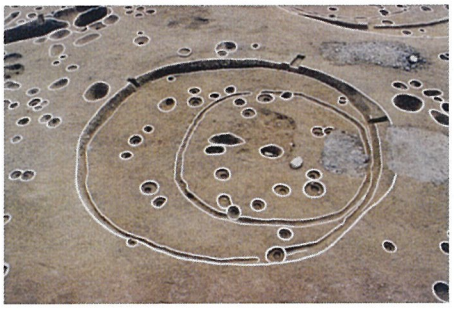
発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81　TEL43-6962)

①二本杉力士の碑

東有年と西有年の境を傍示ヶ鼻といい、舌状にのびた尾根が平野に突出している。この尾根の先端を西有年側へまわったところに数基の古墓がある。うち一つは二本杉茂兵衛の墓で、明治９年(1876)に門人達が建立したものである。幕末から明治にかけて西有年の大避神社では宮相撲が盛んで、二本杉茂兵衛は勧進元であった。大避神社には力士の番付額が明治元年(1868)に奉納されており、当時の相撲熱をうかがわせる。

②西有年・遠古殿遺跡

現在の有年小学校付近に広がる遺跡で、ほ場整備事業に先立って平成５年(1993)に発掘調査が行われた。弥生時代中期の竪穴住居をはじめとする多くの遺構・遺物が検出され、弥生時代中期の大集落であることが判明した。このほか東中野集落の一帯には**西有年・堂場ヶ市遺跡**、**西有年・与井谷口遺跡**があり、中世の掘立柱建物が多数見つかっている。



西有年・遠古殿遺跡

③小亀山淳泰寺

西有年東中野にある浄土真宗本願寺派の寺院である。寺の創立は代々西有年の庄屋を勤めていた寺田家の弥治郎が明治8年(1875)に当山を開基した。境内には自らの資産すべてを寺の創建にあてた開祖の顕彰碑がある。

④大避神社

大避神社は、『播磨鑑』に紅葉の名所と紹介される西有年野々宮にあり、祭神は秦河勝である。秦河勝は大和朝廷での活躍以後、蘇我氏の迫害を逃れて坂越に渡り、そこで没したと伝承されている。千種川流域にはこの秦河勝を祭神とする大避神社が数多く分布しており、当地域の人々に厚く信仰されている。西有年の大避神社には祭神の秦河勝のほか、寄せ宮に天照皇大神・菅原道真・素戔嗚命・牛頭天王・少将井宮などが合祀されている。絵馬堂には法橋に叙せられた北条文信の画による赤穂義士の絵馬や宮相撲の力士番付額が奉納されている。また大避神社の東には、平安時代末期頃と思われる掘立柱建物３棟などが検出された**西有年・宮東遺跡**がある。

大避神社

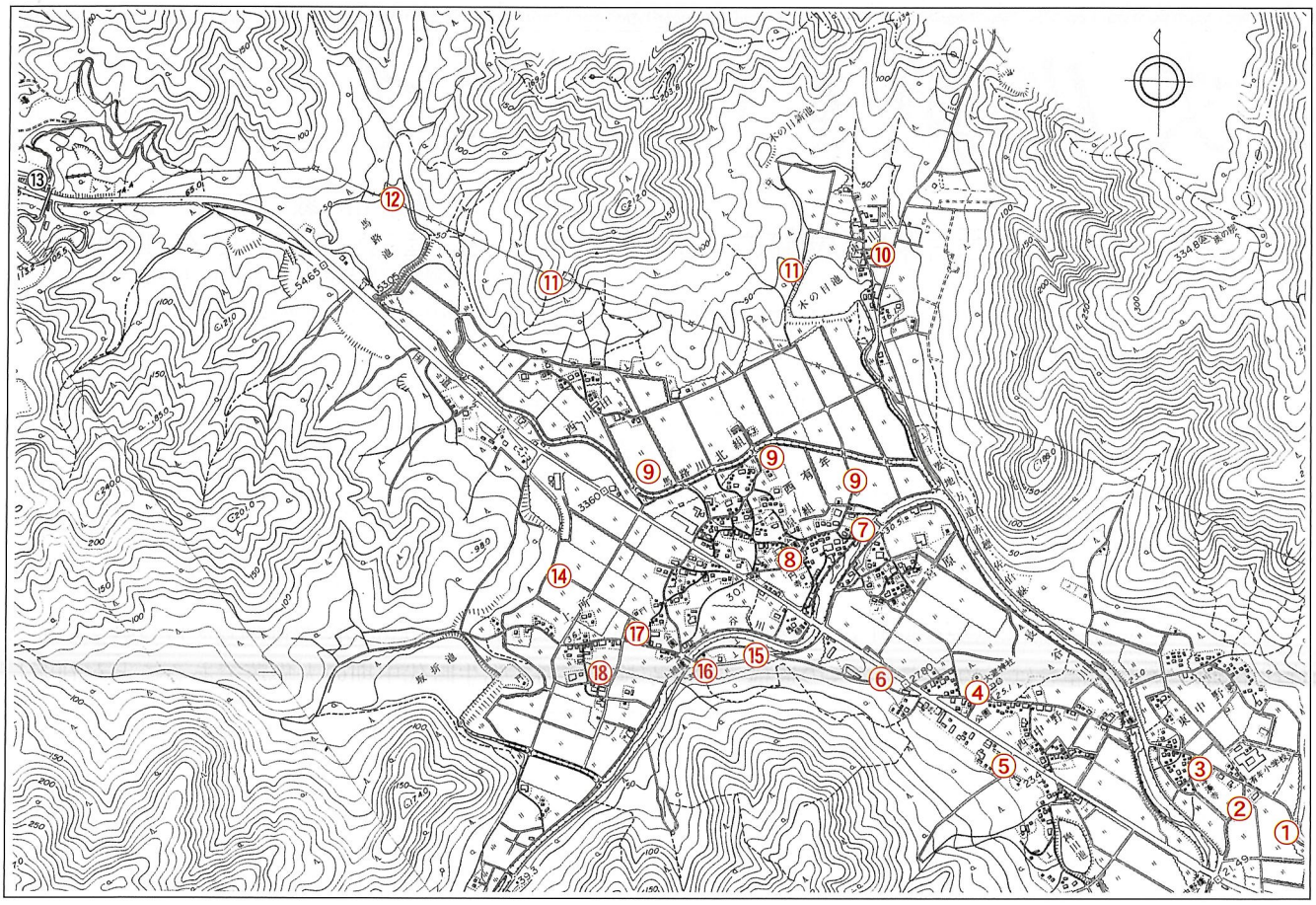
⑤向山裾地蔵

国道２号線沿いにあるガソリンスタンドの造成中に発見された、高さ40cmの花崗岩製の座像であるが、磨滅が激しい。現在はこのガソリンスタンドの東隅に安置されている。

⑥向山五輪塔

向山の北麓、中世の筑紫大道(近世には西国街道)に面して鎌倉時代末から室町時代初頭頃と推定される五輪塔がある。花崗岩製の高さ約1.7mを測る大形のもので、地輪・水輪・火輪・風輪・空輪のそれぞれの四面には梵字が刻まれている。

向山五輪塔



①二本杉力士の碑②西有年・遠古殿遺跡③小亀山淳泰寺④大避神社 ⑤向山裾地蔵⑥向山五輪塔⑦原組の道標⑧六道山大円寺⑨西有年・畑田遺跡、西有年・玄形遺跡、西有年・垣内田遺跡⑩池魚塚⑪北山古墳群⑫馬路池遺跡⑬ 鯰峠の地蔵⑭西有年・長根遺跡⑮往来南の宝篋印塔⑯安井敏一先生の碑⑰ 立場跡⑱ 西有年・ 往来南遺跡

⑦原組の道標（どうひょう）

原組集落の里道改修時に発見されたという高さ60㎝、幅28㎝の小さな道標で、「右　かみこを里　左　山のさと道」と彫られている。現在は付近の民家の一角で保存されている。

⑧六道山大円寺（ろくどうさんだいえんじ）

浄土真宗大谷派の寺院で、大永２年(1522)に宗誓による開基とされている。もとは西有年横山の六道山にあったといわれ、本堂は５間４面で、鐘楼などもあったという。

⑨西有年・畑田（はたけだ）遺跡、西有年・玄形（げんけい）遺跡、西有年・垣内田（かきうちだ）遺跡

ほ場整備事業に先立つ発掘調査によって見つかった遺跡群で、弥生時代中期にはじまる集落跡である。いずれの遺跡もそれぞれの規模は比較的小さいが、こうした小集落がこの付近一帯に点々と存在するものと思われる。古墳時代の遺跡としては、**西有年・木ノ目池ノ下遺跡**で古墳時代後期の流路が検出され、そこから土器や木製品が多量に出土した。また西有年・垣内田遺跡では古墳時代後期の 竪穴住居（たてあなじゅうきょ） が見つかっている。

⑩池魚塚（ちぎょづか）

高さ約1.5mほどの自然石を加工したもので、表に「南无阿弥陀仏」と記された下に横書きで「池魚塚」と、側面には「安政五年戌午三月　□原　宮原中」と刻まれている。池魚塚の前にある木ノ目池の池魚に対する供養塔で、この種の池魚塚は有年横尾にも天保７年(1836)銘のものがある。この塚の横に**末廣稲荷**（すえひろいなり）と呼ばれる稲荷神社が祀られている。これはもと長谷川に架かる新橋付近にあったものが国道拡幅の際にここに移転されたものである。また、東山田から上郡の平野へ抜ける山道の峠付近には**縁切り地蔵**と呼ばれる２体の地蔵がある。

⑪北山古墳群（きたやまこふんぐん）

北山一帯にある古墳群で、２基１群で２群あり合計４基からなる。いずれも横穴式石室（よこあなしきせきしつ）を内部主体とするが、

すでに石室が壊されていたり消滅したものがほとんどである。このほかに北組集落周辺には奈良時代から平安時代の**西有年・堂免遺跡**があり、原組集落周辺には、縄文時代から室町時代にかけての**西有年・木ノ目池遺跡**がある。

池 魚 塚

⑫馬路池遺跡

鯰峠の東麓に馬路池と呼ばれる池があり、ここから石器が採集されることが古くから知られていた。この馬路池遺跡は有年地区で最古の遺跡で、縄文時代早期・前期にまで遡ることが確実な遺跡である。有年考古館長であった故松岡秀夫氏らによって発掘調査が行われており、住居跡などの遺構は発見されていないが、石鏃など多数の石器類が出土している。また付近にはほ場整備事業に先立って調査された**西有年・柴床遺跡**（近世）がある。

鯰峠の地蔵

⑬鯰 峠の地蔵

国道２号線の 鯰峠の頂上付近にあった高さ1.2mの立像である。 この峠は西に続く船坂峠とならんでかつては交通の難所であったので、旅する人々の道中安全を願って建立されたものであろう。建立は比較的新しく明治13年(1880)頃で、その後明治37年(1904)に再建されている。しかし国道の拡幅により移転され、現在は付近のゴルフ場の入口付近に安置されている。この峠には二匹の鯰にまつわる昔話があり、この話を聞いた弘法大師がこの峠を鯰峠と名付けたという。(『赤穂の昔話第１集』)。

西有年・長根遺跡

⑭西有年・長根遺跡

平成３年(1991)にほ場整備事業に先立って発掘調査が行われ、多数の遺構・遺物が見つかった。とくに注目されるのは７世紀から８世紀にかけての掘立柱建物15棟と、付近から出土した円面硯や「大」とヘラ描きされた須恵器皿で、これらの出土遺物と遺構から推察すれば、この地に律令時代の役所があったものと思われる。このほか室町時代の井戸からは日本最古の出土例である木摺臼が出土している。この長根遺跡の背後には７世紀初頭の無袖の横穴式石室を内部主体とした**長根古墳群**(２基)が知られている。

往来南の宝篋印塔

⑮往来南の宝篋印塔

上組集落内を通って坂折峠に向かう中世の筑紫大道沿いに高さ1.15mの宝篋印塔があった。基壇・基礎・塔身・笠・相輪のうち相輪を欠いており、現在は五輪塔の宝珠（空輪）・請花（風輪）で代用している。塔身には四面に梵字が深い薬研彫りで彫られている。これらの諸特徴から室町時代のものと推定されている。しかし周辺のほ場整備事業により移動を余儀なくされ、平成５年(1993)３月に撤去された。これを平成７年(1995)３月に現在の場所に移転し、説明板等を設置して整備された。

安井敏一先生の墓

⑯安井敏一先生の碑

上組集落から横山へ向かう道沿い、上組橋の東詰付近にある。安井家は代々西有年の庄屋を勤め、村人の信頼も篤かった。敏一は庄屋の傍ら安井塾と称する寺小屋を開き、村の子弟の教育に尽くした。明治２年(1869)に59歳で没し、門人達が先生の恩に報じ墓碑を建立した。この墓のある場所はかつて**一里塚**があり、横尾の塚の元からここまでが一里（約４km)であった。

立 場 跡

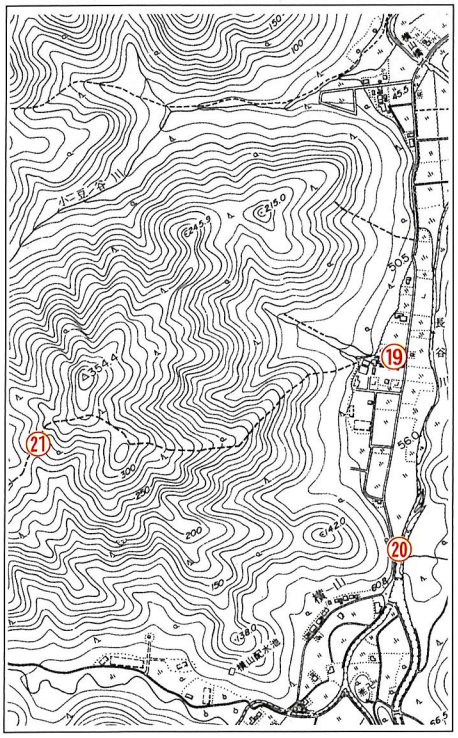
⑰立場跡

近世初期、西国街道の有年の宿は西播磨有数の宿場町として繁栄した。有年の宿は最初西有年に置かれたが、寛永年間に宿場制度の整備に伴い東有年へと移った。立場は有年の宿を出て西に進み、難所の峠にかかる前にここで駕籠を下ろし、人足・伝馬の休息や交代に使われた所である。この建物は駕籠が軒下まで入るよう、軒が深く縁が狭い造りとなっている点が注目される。

西有年・往来南遺跡

⑱西有年・往来南遺跡

現在の上組集落の周辺に広がる遺跡で、平成４年(1992)にほ場整備事業に先立って発掘調査が行われた。調査の結果、南北朝時代ごろの掘立柱建物13棟と鍛冶工房３基が見つかった。掘立柱建物群のなかには、２棟１組の長屋風の建物と他の１棟がコの字型に配置されているものがあり、鍛冶集落を知るうえで興味深い。鍛冶工房跡には炉が備えられており、フイゴの羽口・鉄滓・金床石・砥石などの鍛冶道具や鉄釘・刀子などが出土した。



⑲大山南峠地蔵⑳湯ノ内谷峠地蔵㉑六道山遍照院跡

⑲大山南峠地蔵

県道大津・西有年線から西に長谷池方面へ向かう道は、備前市三石や上郡町梨ヶ原へ抜ける峠道であったが、今は道も荒れ往来する人もいなくなっている。この峠の頂上付近に高さ30cmほどの地蔵が祀られていた。現在は峠から移され、横山の県道沿いの民家脇の路傍に安置されている。

⑳湯ノ内谷峠地蔵

西有年から大津へ抜ける山道に祀られていた地蔵で、高さ1.6mほどの立像である。このあたりの山をいのち山といい、昔はこの山を登るのが命がけであったことから人々の往来の安全を願って建立されたものであろう。現在この地蔵は県道沿いの横山集会所脇に安置されている。

㉑六道山遍照院跡

『播州赤穂郡志』や『播磨鑑』によると寺の創建は高麗の僧恵便が推古天皇８年(600)にこの地に一堂を建てたことに始まるという。寺跡には礎石や五輪塔などが多数残されている。採集された備前焼の壺は鎌倉時代末から室町時代初頭のものとみられており、これら五輪塔や採集土器から判断すれば、この寺は室町時代の寺院である可能性が高い。現在西有年原組にある大円寺がもとはこの六道山にあったといわれる。また、現在塩屋の阿弥陀堂に安置されている阿弥陀仏は、この遍照院の本尊であったものと伝えられている。

※編集後記

『文化財をたずねて』は今回で６号をかぞえます。前回に引き続き有年地区を取り上げました。これで１・２・５号とあわせて有年地区の全地域を紹介したことになります。今後は他の地域の文化財を取り上げていく予定です。

なお、『文化財をたずねて』のバックナンバーがご入用の方は、赤穂市教育委員会生涯学習課文化財係までお問い合わせください。

（調査協力）池本芳文、故井上益雄、竹平慎一、故中山茂雄、沼田　覚、故平田一二、松田里司、故宮下　斉、横山博光

（平成24年３月現在）

（平成24年３月増刷）